

喜び ピリピ書4章4節

香港JCF
2010年7月11日

I 喜びの対象

1. キリスト:2:16-8、(3:8、20)
2. ピリピの信徒の成長:1:3-5、25、2:2、4:4
3. 宣教の前進:1:18、(4:10、15、18)
→パウロはキリストを喜び、キリストにあつて人々や諸事情を感謝している(ピリピ書だけで16回、喜びとその類語が使われている)

II 喜びと信仰

1. パウロは信仰の特徴として喜びを強調
2. パウロの喜びと信仰
 - 1) 出来事→自我→感情:古い人の反応
 - 2) 出来事→信仰→感情:神の子の応答
3. パウロの喜びの本質
 - 1) 永遠に残る
 - 2) 主を見上げる
 - 3) 主との関係

III 喜びの土台

1. 私たちの喜びはキリストにある神の子としてのID(IDとは自分の最も身近な人の影響が無意識のうちに内在化したもの)
2. 自分のIDが固定すると、出来事をIDを通して解釈し、更にIDが固定化する循環が起こる
3. 神を喜び、神が私を喜んでいることを喜ぶ
→古い人は悲しんでも、神の子の私は喜ぶ
→やがて、全てが感謝になっていく

IV いつも喜び、感謝する

1. 主が私を喜んでおられる→私自身を喜ぶ
2. 主が私を喜んでおられる→全てが益となる
3. 主が私を喜んでおられる→いつも感謝する
結)私の最高の喜びは涙と笑いを通してキリストに似た者となり、キリストの友になることだ
→それが感謝に満ちた人生の秘訣

み言の適用

1. 喜びと感謝はキリスト者の特権です
2. それらは信仰の実際的な適用そのものです
3. 今、喜びがなくても、神さまの私への愛を信じ、全てのことが益となることを、感謝と讃美を持って受け入れましょう やがて、主にある喜びを実感する日が私たちにも訪れます
→ハレルヤ、主よ、あなたを感謝します！！